

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第42期）

兵庫県加古川市 岩田 利江子

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

コロナ禍の中、第1部・第2部特別課程第42期は2月15日から3月11日までの約4週間32名の受講生で始まりました。事前にはもう少し多い人数のスタートであると伺っていましたが、日に日に増す新型コロナ第6波のオミクロン株流行による厳しい状況の中、例年に比べると4分の1ほどの人数となりました。

2 新鮮な感覚

今回の研修が始まるまでに、私の場合は、eラーニング学習があり、3か月程前から、地方自治制度、地方公務員制度、地方財政制度に取りかかることになりました。これは、普段の通常業務に並行しての学習になるため、日々、少しずつ勉強を進めましたが、なかなかペース配分がうまくいかず、こちよいい音声に幾度も同じ箇所を読み返し、進めていく状況となります。ただ、これは、実際に研修を受けるためには最低限必要な履修科目であり、今までの、公務員生活の中での各項目の理解を再確認できる貴重な時間となりました。コロナ禍の中、これまで通りの活動ができず、家にこもる時間が増え、強制的に空いた時間を活用して、改めて学びを始めるきっかけにもなり、久しぶりに、学生時代に少し戻ったような感覚になりました。

3 事前課題

また、eラーニングの他に事例演習の事

前課題を提出する必要があります。これは単に市の状況を調べるだけでは、なかなか回答をまとめることはできません。実際、実務を担当している方に話を伺ったり、資料をいただいたりと時間がかかる作業となりました。ただ、この事前課題については、この後、待っている研修で行われるグループ討議で、研修生同士の活発な意見交換や検討に活用され、大変有意義な時間へと繋がっていきました。

これは、多面的に物事を見る機会を得ることが出来、問題発見、解決能力の向上につながり、また各市の具体的な状況を学べる場になったと感じました。

4 第1部・第2部特別課程

実際に、研修が始まると、毎日の講義は充実しており、様々な分野のエキスパートの方のお話はどれも興味深く、講師の方の熱量に時に圧倒され、自分の気持ちが切り替わりました。私自身、長い公務員生活になりつつある中で、このような専門的な知識を長期間受講することは、もうなかなか経験することのない特別な時間となりました。また、座学以外にもディベート型演習や特定政策課題レポートの作成などがあり、研修中はかなり密度の濃い生活となります。

中でも、ディベート型演習は、各班に分かれグループでの作業になり、限られた時間の中で演習内容を検討し、相手に正しく理解してもらえるように事前に何回も内容を調整、プレゼンテーションすることをまとめ実際に本番へもっていきました。ディベート本番は、研修とはいえとても緊張し、授業が終わった後は、かなりの達成感で終わ

ったことを覚えています。

特定政策課題レポート演習については、自分がどのテーマを選択するかにもよりますが非常に時間のかかる作業となり、前もって、統計データ、必要な情報等を集めていても、なかなか内容と文字数の制限に悩まされることとなります。これは、周りのメンバーも同じように苦勞していたとは思いますが、自分のパソコンや、Wi-Fiを持参し工夫してレポートをこなしている方もおり、ときには、レポート内容を互いに相談するなど課題を提出するまでは気持ちが落ち着かず悩ましい日々が続きました。

このように、研修は、いろいろな分野の話聞くだけでなく、実際に、自分自身で政策立案することや、相手に説得力のある話し方を身に付けることができるように工夫されています。振り返ってみれば、どれも、充実した時間が流れ大変貴重な時間を過ごすこととなりました。

5 おわりに

今回の研修を通じて、日々、寝食を共に過ごし、語り合うことができたたくさんの仲間と出会えた喜びは簡単には語りつくすことはできません。コロナ禍の中でも、工夫しながらお互いにコミュニケーションをとり、リフレッシュすることができ、幾度もいろいろな場面で助けていただくこともありました。数週間とはいえ、一緒に研修を受講することができたことは貴重な経験であり、自分自身の力になったことは確実です。

今回、研修を受けて改めて感じたことは、日々追われる通常業務から離れ、このようなすばらしい人材育成環境の中で、自分のステップアップの機会や、かけがえのない同志とのたくさんの出会い、自分を律する貴重な時間をいただいたことです。もしこの文章を読まれて、研修に参加することを迷っておられる方がいらっしゃるのであれ

ば、本研修はこのような素晴らしい経験ができる機会であることを伝えたいです。

最後に、今回研修に参加するにあたって、コロナ禍の中、たくさんの方の協力を得て、参加することができました。一時は研修自体も開催されないかもしれないと思った状況が幾度もありましたが、研修中は、万全の感染対策の中、安心して研修生活を過ごすことができました。

このすばらしい経験を今後、私自身も次の方へ引継ぎ、今回研修で出会った方々と情報共有等続けながら、繋がりを大切にしていきたいです。

このように、私は研修に参加して、多くの発見があり、物事の見方が少し変わったと思います。今まで見てきた市役所の中での景色が随分、変わったように感じ、今後は、この変化を活用し、引き続き現場活動にさらに活かしたいです。これからも、みんなが笑顔で過ごせるまちづくりができるように、日々、様々なものに興味を持ち、問題意識をもちながら今後の公務に尽力していきたいです。



中庭の梅